

金川研究室

を配属先の一選択肢に考えるエシス3年生

学類で学んだ「古典流体力学・古典熱力学」は、限界が迫りつつある
=> 10年後の技術開発で必須とされる、「新しい流体力学、新たな熱力学」を創る

10分程度の簡単な説明会を行う。冷やかし歓迎。

金川研を、配属先の一選択肢として考えている者、考える可能性がある者は、必ず参加のこと。「金川研資料」の部数把握のため、下記 URL もしくは右記 QR コードから参加登録のこと。資料が分厚いため(昨年度実績:30 ページ)、未登録者には資料を配布しない。



<https://t.co/BpvCfJRTJ8>

1. 日時(原則一度のみ。不都合者には個別対応 => 電子メール or 上記フォームから連絡のこと):

2018年12月7日(金) 応用実験(自転車・飛行船ともに)終了後
17:00 頃から 10分程度 @3A203 教室

2. 説明会の内容

- ・ 10分間: 卒研テーマ、教育方針、行事など、全てを記載した「金川研資料」を配布し、簡単に説明
- ・ その後: 金川研学生(M1 と B4)との個別質疑対応(参加任意)。普段の生活、テーマの決め方、厳しい点/緩い点、金川の研究室での実態など、何でもよい。多数の質問がある者、志望度の高い者は、時間延長を見込んでおくとよい。予め、学生に聞きたい質問を考えておくとよい。

3. 対象者(=研究内容+教育方針の一部):

- ・ **機械工学**の基礎研究として、**流体力学と熱力学の理論解析**が主体。大学院まで進学する場合、**実験と数値解析で補う**予定(あくまでも理論がメイン)。理論(手計算)100%を望む者は完全に適合。
- ・ 流体力学・熱力学に何らかの関心があることが望ましいが、必須ではない。
- ・ 授業との相性の一致、とくに、**数学が嫌いでないことが必須**。得意でなくてよい。忘れていても可
- ・ 研究テーマは、配属者の希望や適正を考慮して決定する。数学を多用する点に注意を要する。
- ・ 基礎的で地味だけれども、流体力学・熱力学の本質を追求し、その核心へと迫り、次世代の工業技術の基盤を築くという研究室目標に、僅かでも興味を抱けるか否か、に注意を要する。
- ・ 原則、厳密性を重視する。しかし、例えば ϵ - δ 法などは、ブラックボックスとして許容する。

問合せ先: 金川哲也

(kanagawa@kz.tsukuba.ac.jp)(内線 5254)